第 11 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会優秀演題賞

（筆頭者写真とコメント、５０音順）

口演発表部門

上智大学文学部保健体育研究室
島崎崇史先生

健康教育漫画が行動実施の心理的なレディネスに与える影響

私は、健康情報に触れた際の「心理・感情的な体験」が望ましい行動変容を促すという仮説を持っています。今回の研究では、健康情報の提供においてリスク認知、親しみ、満足、現実性の認知（リアリティ）といった心理・感情喚起をねらいとして漫画を使用しました。身体活動・食行動改善の情報を漫画、および従来型の情報媒体（イラスト中心、物語調テキスト、一般的なテキスト）により提供して効果を比較した結果、漫画は、他の媒体よりも心理・感情体験を促し、望ましい行動の実施意図、知識の向上に貢献していたことがわかりました。

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座
須賀万智先生

うつ病発症時の受診促進をめざしたメッセージの開発と評価

精神疾患の受診の遅れが問題視されています。公衆衛生学的観点から早期発見・早期治療を進めるには、一般市民に問題解決行動を促すヘルスコミュニケーションが必要です。そこで、うつ病発症時の受診促進につながるメッセージを開発することを目標に掲げ、一般市民にどのようなメッセージを伝えたら受診意図を高められるかを追究してまいりました。アンケート調査を繰り返し、一般市民の反応を調べていった結果、「うつ病は治療が必要な病気です」という直接的な内容を繰り返し配信する方法が効果的であることが明らかになりました。

ポスター発表部門

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野
香川由美さん

「患者の語り」を活用した医学生に対する共感教育の効果：授業前後と 7 か月後の検討

患者と医師のコミュニケーションにおいて、医師の患者に対する共感的な態度が重要であることから、医学教育によって継続的に育むことが求められています。本研究は、患者講師から病いの体験の講演を聴く教育による医学生の共感の改善について検討しました。都内国立大学の医学部 4 年生 84 名を対象に、3 時点のアンケート調査により患者への共感を測定した結果、授業前後で得点が有意に上昇し、７か月後も維持されていたことから、その有用性が示唆されました。今後も、患者参画による医学生のコミュニケーション教育の発展に貢献できるよう、研究を積み重ねていきたいと思います。

横浜市立大学 都市社会文化研究科
土屋慶子先生

視線解析を用いた救急医療インタラクションのマルチモーダル分析：メンバーの促し行為とリーダーの指示行為

救急医療では医療者チームが協働し、安全に医療行為を行うことが必要とされます。本発表では、リーダーの指示行為、特に促しを伴う指示に注目し、誰がどのように促し行為を行い、それをリーダーがいかに認識しているのかを、視線解析メガネを用いて収録した救急医療シミュレーション訓練データをもとに明らかにしました。研究の初期段階ではありますが、メンバーからの発話・視線による促しを受けて、あるいはリーダーがメンバーの非言語による促しをとらえ指示を行うことで、互いに診療の方向性を確認・修正していることが示されました。